

大井町 みんなこぞって まちづくり

中山道 ふれあいキング ウォーキング

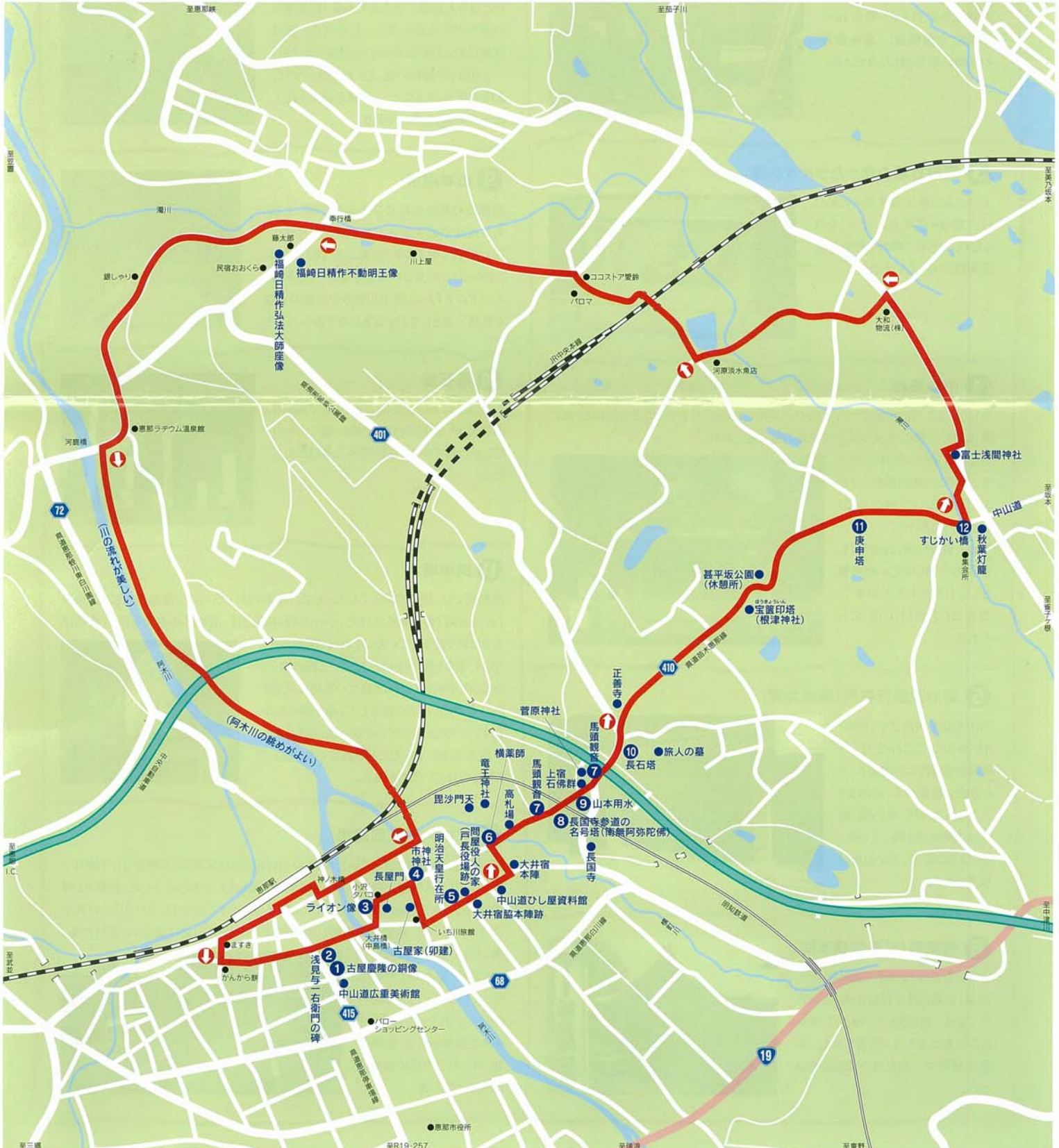
約8km(2時間)

自然と史跡をたずねて健康づくり

大井町のまちづくり
キャッチフレーズ

- 中山道でつなぐ 名勝旧跡ロマンのまち
- 笑顔で会える みんなのまち
- いきいきと営む にぎわいのまち

大井町まちづくり協議会



1 古屋慶隆銅像

元衆議院議員。明知線(昭和8年[1933]大井駅~阿木駅まで開通・現明知鉄道)の設置に尽力された方である。



2 浅見与一右衛門翁の碑

元衆議院議員。大井・岩村間に岩村電気軌道(岩村電車)の敷設を計画され、明治39年[1906]全線開通し、恵南地方の開発に尽力された方である。



3 福崎日精の作ったライオン像

大井ダムの犠牲者供養のために白衣観音(恵那かんぼ下)を作るために来られた佛師の作である。芸術性が高いといわれる。



4 市神神社

昔は、たばこの市が始まりで、上宿の市場田に市神神社があったと言われる。後に阿木川岸に移り、度々の洪水で現在の地に祀られた。

たばこ市がもとで作られたので、たばこの花の形をしただんご(福だんご・神だんご)が売られたという。

昔から福寿円満、商売繁昌、農蚕の守護、雨乞いの神様としてお祈りする人が多く、祭典は1月7日(七日市)に行われる。



5 明治天皇行在所(現岩井家)

明治天皇が明治13年[1880]6月28日に、ここ行在所(当時は伊藤家)にお泊りになられた。現在でも、お泊りになられた部屋、風呂場、便所は当時のまま残っている。このように現存している所は数少ない。



6 横葉師(延寿院横葉師)

本尊は行基作と言われる葉師如来で、病気、長命にはご利益があると言われる。戦国時代に静岡方面からこの地に来られ、定着された。本尊は秘佛で一般には公開されていない。



7 馬頭観音

観音様の頭に馬の頭が乗っている。これは中馬街道筋(名古屋~長野)に多い。人々の願いを聞いてくださるのが観音様でしたが、いつの間にか馬の供養に結びつく様になり、馬が荷を運ぶのを苦しむ坂や、馬が死んだ所、馬の血取り場などに祀られる様になった。この近辺では寺坂、五妙坂に建てられている。



8 南無阿弥陀仏の碑

この碑は、武蔵(現埼玉県)の新井長左衛門と言ふ人が建てたものである。伊勢参りの帰りに中山道へ出て、大井宿のいろは旅館に泊った時に母のいろが病にかかり、一ヶ月余りの闘病の後、亡くなった。その亡き母の供養の為に、この碑を建立(石工は江戸の人)したのである。



9 山本用水

恵那市の東野西部及び大井町学頭、上宿、大井長島では、大変水不足で困っていたので、江戸時代(明和9年・安永元年[1772])に5,400mほどの長さの用水を東野の山本(阿木川ダム下)から、阿木川の水を田畑の大切な灌漑用水として引いてきたのである。



10 長石塔

言い伝えによると、長国寺の四世である円山和尚が、住民の幸せを願い建てたものだと言われている。五輪塔の二基ほど見られる。



11 庚申塔

岡瀬沢では、庚申講がとでもさかんで、「庚申待ち」といって、講元の家に集り庚申(青面金剛)の掛軸をかけて、その日はお茶飯と汁、漬物等の夕食を頂き、夜明け方まで長く話をしていた。それは、庚申の目がやって来ると腹の中に三尸虫(三匹の虫)がいて、庚申の夜になると寝ている間に天帝にその人の悪いことを報告して、命を縮める為、寝ずにいると虫は出ていかないという謂れから、一晩中寝ないでいたと言われている。現在でも行なわれている所がある。



12 すじかい橋(筋違橋)

濁川は昔、岡瀬川と言っていたが、この川は保吉山(東野)から源を発して流れていて、この一帯は赤土の山が多く雨が降ると濁り水になるため、いつしか濁川と呼ぶ様になったと言われている。ここに架かる橋に「すじかい橋」という珍しい名が付けられている。通常橋は川筋に直角に架けるが、この橋は道なりに架けた為、橋が川に対して斜めになっており「筋交い」の様になっているので、「すじかい橋」と言われた。「筋交い」=木造建築を耐震・耐風の為、柱と柱との間に斜めに取り付けられた木材)

